



報 会

一般社団法人 人間力認定協会

理解は支援の第一歩！

支援の輪を拡げよう！

受講者は延べ一万名に

世界八カ国に拡がる支援の輪

お陰様で、当協会が認定する「児童発達支援士」「発達障害コミュニケーションサポーター」資格を受講された方の延べ人数が一万名を突破いたしました。認定開始からわずか一年二カ月で一万名を突破し、日本全国のみならず、アメリカ・カナダ・ドイツ・シンガポール・タイ・マレーシア・コロンビアと世界八カ国に支援の輪が拡がっております。このことから、発達障がい児支援は、世界中で注目されていることだとわかります。

また資格を取得された後も、定期的な学びを提供し、支援の幅を広げていくために設けた「認定支援士」制度へのお申込みも百件を越え、日本全

国で認定支援士が活躍をされており、皆様の積極的な活動のお陰もあり、最近では医療機関や療育施設にて、当協会の資格を紹介されるといふ事例も確認しており、広く認知されてきていることを大変嬉しく思うと同時に、とても心強く感じております。

今年、新たにソーシャルスキルトレーニングに特化したサービスを皆様にご提供しようと考えており、現在準備を進めております。子どもたちの未来を明るくものにし、保護者や支援者の笑顔を増やすことのできるサービスを開始しますので、ご期待ください。リリース情報は協会公式LINEにて配信いたします。

理事長より挨拶

～協会活動の目的と使命②～

ご報告の通り「非認知能力で人は誰でも幸せになれる」というテーマで講演をさせていただけたことに、大変感謝しております。それは、そのテーマがまさしく当協会の目的と使命だからです。今回はその中でも特に大切な自尊心（自己肯定感）の育て方についてお話しをさせていただきました。

自分を大切にできない人が人に優しくできるはずもありません。そして人に優しくできない人が幸せになれるはずもありません。この悪い連鎖を解消するには、子どもの心に自尊心をしつかりと育てる必要があるのです。

今年さらには非認知能力の普及活動に尽力する所存です。講演内容についてお知りになりたい方は、協会までご連絡ください。

人間力認定協会
代表理事 井上智之



長野県社会福祉事業団様より依頼のあった講演 「非認知能力で人は誰でも幸せになれる」



中信地区の特別支援学校・学級及び
社会福祉施設の皆さんの個性あふれる作品展です!

ほのぼの 力作展

入場無料

令和4年1月14日(金)~16日(日) 9:00~17:00
キッセイ文化ホール(長野県松本文化会館) 中ホール

第20回 こまくさ教室 公開講座
「非認知能力で人は誰でも幸せになれる!」
令和4年 1月15日(土) 13:30~15:30
講師: 井上智之氏
(一般社団法人人間力認定協会 代表理事 / 株式会社エンエーシー・ソリューション 代表取締役)
会場: オンライン開催 (Zoom 使用)
お申込み・お問い合わせ: 長野県社会福祉事業団 信濃学園 TEL.0263-92-2076

キッセイ文化ホール (長野県松本文化会館) TEL.0263-34-7100
【主催】一般社団法人人間力認定協会 【協賛】長野県社会福祉事業団 【後援】長野県教育委員会
【協賛】松本市教育委員会・安曇野市・安曇野市教育委員会・JCO ネットワーク協会の

信濃学園 こまくさ教室公開講座にて講演を行った際の様子 (2022.1.15)

講演テーマは非認知能力

二〇二二年一月十五日に長野県社会福祉事業団様が主催する「こまくさ教室公開講座」にて講演をさせて頂きました。こちらの団体が運営する信濃学園という障がい児入所施設の保護者に対して「非認知能力についての講演をお願いしたい」と一通のメールを頂いたことが始まりでした。メールをくださった職員様がとても熱い気持ちを抱き、支援をされていることに大変感銘を受け、引き受けさせていただきました。テーマは「非認知能力で人は誰でも幸せになれる」というものです。私はこれまで、十年以上前から非認知能力について考え、脳科学者とも議論を重ね、プログラムを体系化してきましたが、今回の講演が決まったことをきっかけに、改め

て様々な情報を仕入れ、自身の情報をアップデートしてまいりました。そのおかげか、講演では沢山の方のご賛同を頂き、講演後のアンケートでもご好評の声を多数あったことを教えて頂き、ホッと胸をなでおろしております。

講演でお話しした言葉の中でも、皆様の記憶に残ったであろう一つのお話を紹介いたします。それは「幸福の定義」についてです。

幸福とは、今あるものに感謝している心の状態
不幸とは、今ないものに執着している心の状態

何が正しいのかではなくこのような考え方もあると捉えて頂き、変わるきっかけになれば幸いです。

拡がる認定支援士の輪

新たにご登録いただいた認定支援士のご紹介

個人情報保護のため、ぼかしを入れています

認定支援士より頂いたメッセージをご紹介します

(全員のメッセージを紹介しきれないため、今回は一部の支援士のみご紹介します)

中部
エリア

のびのび楽舎
羽田 純花さん

資格取得のきっかけは？

幼稚園教諭として働く中で沢山の個性を持った園児たちを見てきました。実際に集団活動をする中で自分の気持ちと周りとの様子が葛藤を持ち上手く溶け込めなかったり、変に悪目立ちしてしまったりするお子さんが最近が増えたように感じ、どんな風な配慮や関りが良いのだろうと手探りで行ってきました。そこで児童発達支援士の資格に出会いました。

何か変化はありましたか？

「どうして出来ないの」と押し付けるのではなく、「このようにしたら指示が分かりやすいかも」「これが苦手だからこんな行動をしているのかもしれない」と予測して子どもの気持ちにより寄り添った関りを意識できるようになりました。

中部
エリア

団体名なし
匿名希望さん

資格取得のきっかけは？

十二歳の軽度知的障害・ADHD傾向の息子の子育てをしています。病気の後遺症で、一歳の頃から発達に問題を抱えながら生きる子どもを育ててきた経験があり、同じような境遇で苦しんでおられるお母さん方に寄り添いたく受講しました。

悩んでいる方にアドバイス

子どもの未来は明るいですが、可能性も沢山秘めていますので、子育てを心から楽しんで欲しいと思います。障害があってもなくても、子どもに関する悩みは大小尽きませんよね。どうせなら楽しく毎日をご過ごした方が、絶対に良いです。

私は、子どもの未来も自分の未来も大切にしたいので、明るく、楽しく家族で笑いの絶えない毎日を過ごすことを絶対におすすめします。

四国 エリ

姫 geccart ヴォイストレーナー
宮崎 ゆうこさん

―最も大変だった経験は？

中学二年で二次障害が発症した時、合理的配慮が全く対応していただけなかったことです。授業についていけず、睡眠障害で眠くなると叱られて、集中力がなく団体行動のできない長女は男の先生の怒鳴られる指導にパニックを起こしトイレに閉じこもる毎日。その度に仕事中に呼び出され、彼女がどうしてこうなるかを先生にお話ししてもなかなか理解していただけず。通級の要求も通るのに一年かかりました。診断を受けて一年も経つのに個人年間指導計画もなかった学校でした。自分自身がどんなに発達障害の勉強をしても、学校側の支援のあり方や、先生方の言葉かけを考え直していただかないとどんどん酷くなってしまう一方でした。

東 エリ

団体名なし
匿名希望さん

―資格取得のきっかけは？

幼稚園教諭時代に出会った特性ある子どもたちは、集団生活の中では、時に個別支援が必要となります。保護者の方から相談を受けることもあり、「うちの子は発達障害なのだろうか」「どうのようか」「どう接したらいいのか」「どう接したら戸惑いの声を多く聞きました。そのような経験の中で、子どもたち一人ひとりの支援をすることはもちろんですが、子どもたちを育てるために、一生懸命がんばっている保護者の方の「心」の支援をしたいという想いが強くなりました。

そのための支援をしていきたいと思ひ、それには知識、経験を深める必要性があることを感じて、受講のテキストを手に取りました。

東 エリ

団体名なし
駒井 みゆきさん

―資格取得のきっかけは？

教員免許を取ったが、発達障がい児に対するコミュニケーション方法については学べなかった。実際学校へ行く通常クラスに多くのグレーゾーンと思われる生徒がいて集団での授業に困難が見られた。インクルーシブ教育に大賛成ではあるが、それをするには対象者に具体的な療育を合わせて行ないつつ、通常の授業をすることが必要であり、環境やツールも必要であると考える。

―支援で重要なことは？

一、当人の特性や性格、家族関係を知ること
一、できることに注目して、それを活かしてよい方向へ伸ばしていくこと
一、失敗をプラスに変える考え方や声掛けを行う

四国 エリ

団体名なし
匿名希望さん

―悩んでいる方にアドバイス

私は、幼稚園教諭・学習塾経営・家庭教師の経験がありますが、教育に関わる方々は、子どもが百人いたら百通りの接し方が必要です。子ども達を取り巻く環境も日々変化する今、まわりの大人がより良いサポートができるように、情報交換やスキルアップしていく事はとても大切だと思います。一人で悩まず、同じ方向を向いている仲間作りも、私達大人にはより必要ではないでしょうか。

―支援で重要なことは？

大人は、子ども自身が、社会に出て大切な主体性を育むためのサポートを考えること。そのために必要な、大人（保護者・学校）同士の情報交換・コミュニケーションは常に大切だと感じています。

関西 エリア

アクトパーク
大野 龍子さん

— 何か変化はありましたか？
 例えば「返事」「挨拶」の大切さは今迄からもわかっていることですが、それをわかるように説明するのは難しいことでした。教本の中にその内容が出てきた時、本当に腑に落ちた感じがしました。「なぜ必要なのか」「どんな意味があるのか」を知ること、保護者にわかるようお話ししながら一緒に考えることができません。今は自信を持ってお話しできるようなったかな、と思っています。

— 悩んでいる方にアドバイス
 とにかく学ぶことは必要です。学ぶことで、必要なことが整理できます。「以前に勉強した」ことも多いでしょうが、視点を変えてみるとよりわかることがありますし、忘れることも多いのなら、何回も聞いたり読んだりすることは大事だと思っています。

関西 エリア

団体名なし
匿名希望さん

— 資格取得のきっかけは？
 保育士をしています。この世界で三十年間現場専門です。今は午前中のパートのみですが、自分の思う若い頃に比べて明らかにグレイゾーンの乳幼児が増えている感覚があります。核家族化が進み、夫婦だけで子育てしているなかで保護者に障害についての話をする段階においてのエネルギーがものすごく必要となってきました。

— 今の私の立場としては直接保護者と難しい話をするのもそれについての書類を作成する立場でもないのですが、保護者、主保育士、子どもを知る立場として具体的に学ぶことでよりの確にサポートできればと思います。

東 エリア

団体名なし
渡辺 友子さん

— 資格取得のきっかけは？
 現在年少の息子が通う幼稚園の未就園児クラスに入園した時に、先生から「指示した二つのことが、一つすると次分からなくなり動作が止まってしまふことが多い先生が必ずサポートしなければ厳しい状態です。またHSO傾向があり、繊細で大きな音がすると固まってしまふ音が出るようになってしまいました」

と指摘され、支援センターの集団療育を勧められました。ただ「どうして未就園児の子が、三つ指示されたことが出来ないの？とすぐ療育を勧められるの？」と疑問ばかりが残りました。そこで発達について、もっと自分自身の知識が必要だと感じ受講しました。

～支援士の活動サポート～

活動団体やWEBサイトの紹介

皆様の活動を応援するために、当協会のWEBサイトにて皆様の団体やブログ等をご紹介します。もしご希望の方がいらっしゃいましたら、事務局の望月までご連絡ください！支援の輪を共に広げていきましょう！ ninkyou.mochizuki@gmail.com

(活動団体のご紹介事例)

児童発達支援士を導入している団体

 <p>発達障がい支援センター 全国(オンライン) 心療カウンセラー</p>	 <p>児童発達支援 自由発達アドバイザー 兵庫県神戸市 阪神発達アドバイザー</p>	 <p>児童発達支援センター ピースフル 和歌山県西牟婁郡 訪問看護ステーション</p>
 <p>FIPSTA (フィプスタ) 株式会社 大阪府中央区 オンス&ミック教室</p>	 <p>GROWING (グローウィング) 株式会社 京都府京都市 阪神発達保育学習室</p>	 <p>シマクリエイト 株式会社 愛知県豊川市 KTX学習教室</p>